

## 板金業と「共存共栄」 太陽光発電に活路

株式会社 セキノ興産  
代表取締役社長

関野 光俊 氏



とに別会社にして、お互いに良い意味で競争しながら発展していく仕組みにしました。エリアを拡大するとき、金属建材の需要は、一般住宅、非住宅も含めて雪国寒冷地で使用率が高いため、東日本全域にグループ会社が広がりました。拠点はどれくらいありますか。

61拠点あり、地元で育った人が店長になっています。別法人ですが、本社直轄です。主要な加工センターは4カ所あり、新潟の見附、千葉の野田、東北の北上と、西は滋賀の彦根が加工と配送を集約した工場になっており京都や大阪、和歌山周辺まで加工配送しています。新たに静岡県富士市に、太陽光発電システムの加工も行う新工場を建設し、昨年9月に稼働しました。

### —売電事業に参入—

東日本大震災の影響は？

岩手県北上市にある岩手セキノ興産北上店はメインのラック倉庫が被災し、クレーンも壊れ、半年休業しました。1億円近くの実損が出ました。今、この北上店の遊休地に1,800枚のソーラーパネルを並べ、出力約450kWの大型発電所を設置し、売電事業に乗り出す計画です。

太陽光発電は10年ほど前から事業展開されています。国の再生可能エネルギーの普及という追い風を生かすチャンスですね。

太陽光発電関係はまだ当社全体の売り上げの4～5%程度で、これを1割にすることが当面の目標です。元々ある雪止めのファスニング技術を活用して、金属屋根＋ソーラーをテーマにやっています。ソーラーシステムは取り付けが大変で危険な作業が伴うため、屋根のプロである板金・屋根建築業者

の仕事と考えて、太陽光の事業に乗り出しました。板金業者さんの仕事をなんとか確保したいというのが本音ですが。

再生可能エネルギーの「固定価格買い取り制度」の価格が決定し、7月に施行されます。震災復興の特需はありますか。

全量固定価格買い取りは、一般住宅は10年、非住宅・産業用は20年です。20年同じ価格で買ってもらえるのですから、10kW以上の大型のいわゆるミニ発電所の見積もり依頼は増えていきますし、今後増えると思います。復興特需は確かに被災地を中心にありましたが、今は少し下火になってきています。重い和瓦が崩れて、その補修が結果的に金属瓦か横葺きの屋根に置き変わっています。今後は補修だけでなく、それプラス太陽光パネルを載せる仕事を広げていきたいわけです。

### —電気のプロを育成—

太陽光発電需要増の対応策は。

今は専門の電気工事業者とタイアップしていますが、自前の電気のプロを育てるため、電気工事士の資格取得を推進しています。電気のプロがいないと10kW以上の工事は難しいですし、もっと大型の工事に対応するためには、工事士の資格を持った人が経験を積んで資格を得られる電気管理技師も

### — 略 歴 —

1943(昭和18)年生まれ。高岡市出身。早稲田大学商学部卒。旧松下電工勤務を経て、1969年セキノ興産入社。常務、専務を経て、1989年社長就任。

屋根に穴をあけない「キャッチ工法」で太陽光パネルを設置する ▶

必要になってきます。勉強を奨励し、電気も分かる人材を増やそうと考えています。

研究開発型企業を目指しておられますが、具体的な活動は。

社員からの報告書に提案の欄を設けて、アイデアを導き出すことをしています。アイデアが採用されたら報奨金が出ます。技術力のある板金業者とタイアップして共同で作り、連名で特許申請をすることもあります。

経済産業省の中小企業のIT企業大賞2010を受賞されています。

事務処理、販売在庫管理、人事すべてのシステムを再構築しました。これで一挙に全国の拠点の在庫状況が分かり、在庫の無駄が解消しました。

### —板金業のために省力化—

屋上緑化もしておられます。今後の展望は。

千葉の工場が手狭になり、増設するとき、工場立地法の緑化面積を満たすため、屋根の上を緑地にして、建屋面積を増やしたことがあります。これを機会に、屋根屋の新たな仕事として、屋上緑化の材料、工法の開発にも乗り出しました。

遊休地ともいえる工場の屋根の上を活用し、太陽光パネルをつけたら発電できる上に断熱効果もあるので、当社の郡山工場をモデル



ケースにしてノウハウをたくわえ、PRしていこうと考えています。

本業では、やはり新しい製品開発、工法開発が必要です。それプラス、ソーラー事業で頑張りたいと思っています。屋根や壁に関わることは板金業者の仕事にしていきたいというのが大前提です。今考えている面白い商品が、屋根の明かりとりです。

先代からのすすめで奈良の靈山寺にお参りしておられるそうですね。

今も毎月、お参りさせてもらっています。板金業者さんと一緒に先代が作った「七福講」という組織の中で、一昨年からは年1回、四国の88カ所巡りをやっています。座右の銘を教えてください。

先代が残した社訓を生かして申しますと、「不断努力」することから感謝の念が生まれ、「誠意精進」することから希望の道が拓け、「日々反省」の中から変化に対応する社風が醸成される。そして会社も繁栄、存続の基盤ができ、さらに堅実に成長しながら洗練されていく。これが経営の信条です。

### 会社概要

株式会社 セキノ興産

創 業：1938(昭和13)年12月  
所 在 地：富山市水橋開発277-12  
資 本 金：9億9,300万円(グループ全体)  
事業内容：金属製屋根・壁材の加工販売、住宅機器・各種建材の販売、屋根及び外装工事の設計・施工管理、建築板金積算ソフトの販売、太陽光発電システム・オール電化機器の販売  
従業員数：886名(グループ全体)  
(2012年5月現在)  
売上高：433億円(グループ全体)  
(2011年7月期)  
グループ会社：協同組合セキノ興産、(株)富山セキノ興産、(株)石川セキノ興産、(株)東海セキノ興産、(株)中越セキノ興産等、グループ計23社  
U R L：http://www.sekino.co.jp/